

○衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。  
 ○家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。  
 ○協働学習を通して、生活の問題点や改善点を発見し、様々な条件の中で解決方法を考え実践する姿をめざす。

月	単元・題材名	時数	学習内容	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
4	A家族・家庭生活 家族・家庭と地域	3	・3年間のガイダンス ・家庭や家族の機能や地域との関わり	◆家庭生活と地域の関わりについて理解している。	◆家族関係をよりよくするために工夫することができる。	◆家族との関わりやこれからの家庭生活を考えることができる。						
5 ・ 6 ・ 7	B衣食住の生活 衣服の選択と手入れ	10	・衣服の働き・衣生活の自立 ・日常着の適切な手入れと補修 ・和服の文化に触れよう ・補修の技能を生かした作品の製作 ・衣服の収納や再利用	◆目的にあった衣類の適切な選択ができる。 ◆簡単な補修と衣類の手入れができる。 ◆衣服の役割を理解している。 ◆取扱説明書、組成表示を理解している。 ◆繊維の特徴と、扱い方を理解している。	◆居心地の良い部屋にするために工夫することができる。 ◆室内の事故の対策や災害に備えた安全な住み方の工夫ができる。 ◆よりよい住まいをめざし、必要な工夫ができる。	◆衣生活の流れをまとめることができる。 ◆手順通り実技を進めようとしているが						
			1学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上	・学習ノート ・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・基礎縫い ・定期考査	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・実習の様子 ・定期考査 ・言語活動	・学習ノート ・ワークシート ・授業観察(発言) ・実習の様子						
9 ・ 10	B衣食住の生活 生活を豊かにするために	6	・補修の技能を生かした作品の製作 ・衣服の収納や再利用									
10 ・ 11 ・ 12	B衣食住の生活 住まいの役割と安全な住生活	9	・住まいについて ・生活行為と住空間の関わり ・部屋を快適にする ・通風と換気 ・室内環境を整える ・ダニ・カビの防止 ・安全な住み方の工夫	◆住まいと人との関わりについて考えることができる。 ◆住まいの役割について理解している。 ◆住まいの清掃と手入れの仕方について工夫し、実践することができる。 ◆室内の事故の対策や災害に備えた安全な住み方の工夫ができる。 ◆健康を考えた、快適な室内環境の整え方を理解している。 ◆ダニやカビの防止法を理解している。	◆居心地の良い部屋にするために工夫することができる。 ◆室内の事故の対策や災害に備えた安全な住み方の工夫ができる。 ◆よりよい住まいをめざし、必要な工夫ができる。	◆住まいと人との関わりについて考えることができる。						
			2学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上	・学習ノート ・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・作品 ・定期考査	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・実習の様子 ・定期考査 ・言語活動	・学習ノート ・ワークシート ・授業観察(発言) ・実習の様子						
1 ・ 2	B衣食住の生活 生活を豊かにするために	4	・日本の行事と行事食 ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン ・持続可能な住生活をめざして	◆快適な室内環境の整え方を理解している。 ◆環境に配慮した快適な住み方の工夫ができる。	◆持続可能な住生活に必要な工夫ができる。	◆日本の行事食について関心をもつことができる。 ◆住まいと人との関わりについて考えることができる。						
2 ・ 3	B衣食住の生活 私たちの食生活	3	・食事の役割と栄養	◆健康と食事の関わりを理解している。 ◆食品には様々な栄養素が含まれていることを理解している ◆リンゴの皮むきができる。	◆食生活の点検から課題を見つけ、食事の摂り方を見直すことができる。	◆生活の中で食事の果たす役割や、健康と食の関わりについて関心もてる。						
			3学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上	・学習ノート ・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・実習の様子 ・定期考査	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・定期考査 ・言語活動	・学習ノート ・ワークシート ・授業観察(発言) ・実習の様子						

○衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。  
 ○家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。  
 ○協働学習を通して、生活の問題点や改善点を発見し、様々な条件の中で解決方法を考え実践する姿をめざす。

月	単元・題材名	時数	学習内容	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
4	B衣食住の生活 中学生に必要な栄養と食事	3	・食事の役割 ・栄養素の種類と働き	◆栄養素の種類と働きを理解している。 ◆食品には様々な栄養素が含まれていることを理解している ◆栄養的特質により食品を分類することができる。	◆食生活の点検から課題を見つけ、食事の摂り方を見直し、工夫することができる。	◆生活の中で食事の果たす役割や、健康と食の関わりについて関心もてる。						
5 ・ 6 ・ 7	B衣食住の生活 食品の選択と購入 日常食の調理 課題と実践	13	・食品の選択と購入 ・食品の特徴と調理上の性質 ・調理実習	◆食品添加物の目的や問題点について理解している。 ◆食品の表示やマークについて理解している ◆生鮮食品と加工食品の特徴を理解している。 ◆食品の適切な保存方法を理解している。 ◆熱源を安全に正しく扱う事ができる ◆衛生に配慮した調理ができる。 ◆包丁を正しく、安全に使用できる。	◆食品の適切な保存法を理解し、工夫することができる。 ◆食糧資源の大切さを理解し、無駄にしない方法を実践できる。	◆食品の流通経路を考え、食品に関心を持つことができる。 ◆協力して後かたづけでき、反省することができる。						
			1学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上	・授業観察 ・ワークシート ・実習の様子 ・包丁テスト ・定期考査	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・実習の様子 ・定期考査 ・言語活動	・ワークシート ・授業観察(発言) ・実習の様子						
9 ・ 10 ・ 11	B衣食住の生活 日常食の調理 日本の食文化	12	・食品の特徴と調理上の性質 ・調理実習 ・日本の食文化	◆食品の適切な扱い方を理解している。 ◆調理の流れを理解し、能率の良い調理をすることができる。 ◆熱源を安全に正しく扱う事ができる ◆衛生に配慮した調理ができる。 ◆包丁を正しく、能率良く使用できる。		◆食品の流通経路を考え、食品に関心を持つことができる。 ◆安全に配慮し、協力して後かたづけでき、反省することができる。						
12	B衣食住の生活 持続可能な食生活をめざして	3	・よりよい食生活を目指して ・日本の食料問題と環境問題	◆地産地消の良さを理解している。 ◆日本の食料自給率と世界との関わりを理解している。	◆食糧資源の大切さを理解し、無駄にしない方法を実践できる。 ◆環境との関わりから、環境に留意して、より良い食生活を工夫することができる。	◆地域の食文化に関心をもつことができる。						
			2学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・実習の様子 ・定期考査	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・実習の様子 ・定期考査 ・言語活動	・ワークシート ・授業観察(発言) ・実習の様子						
1 ・ 2	C消費生活と環境 私たちの消費生活	5	・消費者としての自覚 ・物資やサービスの適切な選択と購入 ・購入方法と支払い方法 ・消費者トラブルとその対策	◆物資、サービスの適切な選択、購入、活用ができる。 ◆クーリング・オフ制度について理解し、必要なときにこれを利用して解決することができる。 ◆日常消費している物資やサービスによって生活が成り立っていることを理解している。 ◆販売方法の特徴を理解している。 ◆悪質商法等、消費者を取り巻く諸問題を理解している。 ◆悪質商法の被害にあわないための知識を身につけている。 ◆消費者保護について理解している。	◆環境に配慮した消費生活の工夫ができる。	◆消費者としての自覚をもち、自分の生活を振り返り、関心を持つことができる。						
3	C消費生活と環境 責任のある消費者になるために	2	・消費者の権利と義務 ・環境に配慮した消費生活 ・持続可能な消費生活を目指して	◆商品選択時に環境や資源への影響を総合的に判断することができる。 ◆資源循環型社会について理解している。	◆環境や資源への影響を考慮した消費生活を工夫できる。	◆環境や資源への影響を考慮した消費生活に関心を持つことができる。						
			3学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・実習の様子 ・定期考査	・学習ノート ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・定期考査 ・言語活動	・学習ノート、ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・実習の様子 ・定期考査						

家庭科(3年) R5 年間指導・評価計画

教科の目的

○衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。  
 ○家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。  
 ○協働学習を通して、生活の問題点や改善点を発見し、様々な条件の中で解決方法を考え実践する姿をめざす。

月	単元・題材名	時数	学習内容	教科の目的		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	C消費生活と環境 課題と実践	2	・環境に配慮した暮らし	◆既習事項を振り返り、環境を守るための実践プランを立てることができる。	◆生活の中で環境に配慮する工夫を具体的に考えることができる。	◆環境に配慮した生活について関心を持つことができる。
5 ・ 6 ・ 7	C消費生活と環境 私たちの消費生活	4	・エコバックの作製	◆生活に役立つものを効率よく製作することができる。 ◆消費者として環境を守るための方法を具体的にあげることができる。	◆工夫して実習計画を立てることができる。 ◆計画的に実習をすすめることができる	◆作品を最後まで仕上げようとしている。
			1学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上	・作品 ・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・定期考査 ・学習ノート	・ワークシート ・実習の様子 ・定期考査 ・言語活動	・学習ノート ・ワークシート ・授業観察(発言) ・実習の様子
9		2	・エコバックの作製	◆生活に役立つものを効率よく製作することができる。	◆計画的に実習をすすめることができる	◆時間内に作品を完成させようとしている。
10 ・ 11 ・ 12	A家族・家庭生活 幼児の生活と家族	6	・幼児の体と心の発達 ・生活習慣 ・幼児の生活と遊び ・子供にとっての家族 ・幼児のおやつ作り	◆生活習慣をつけるための具体的な方法(行動)を発表することができる。 ◆家庭には、子供の保護、情緒の安定、社会化の基本的な役割があることを理解できる。 ◆幼児にとっての遊びの意味がわかる。	◆幼児に必要な栄養を考えたおやつを工夫することができる	◆幼児について関心を持ち、子供を取り巻く環境について考えようとする。
			2学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・定期考査	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・定期考査 ・実習レポート	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・定期考査
1 ・ 2 ・ 3	A家族・家庭生活 これからの家族と地域 3年間のまとめ	4	・家族のかかわり ・家族や地域の高齢者との関わり ・地域での協働を目指して	◆3年間の学習を振り返り、自立と共生について理解できる。	◆地域とのかかわりをよりよくするための工夫や行動を考えることができる。	◆家族関係をよりよくするには自分はどう行動するのが良いのか関心をもつ。 ◆地域との関わりに関心を持ち地域の一人として役割を果たそうとしている。
			3学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・定期考査	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・定期考査 ・言語活動	・ワークシート ・授業観察(発言・質問) ・定期考査